

6/5



新小学生

発行所
〒100-0001 東京都千代田区千代田
〒100-0001 東京都千代田区千代田
〒100-0001 東京都千代田区千代田

果ルンチでウクライナを体験



ウクライナ料理の紹介
果ルンチでウクライナを体験
果ルンチは、果物を使った健康的な食事です。今回は、果物を使ったウクライナ料理を紹介したいと思います。

果ルンチのレシピ
果物を使ったウクライナ料理のレシピをご紹介します。

果ルンチの紹介
果物を使ったウクライナ料理の紹介



6/5 日曜日



小学生新聞

MAINICHI

読者サービス部

〒100-8001 東京都千代田区千代田1-1-1

配達お問い合わせ
電話お申し込み

0120-468-012

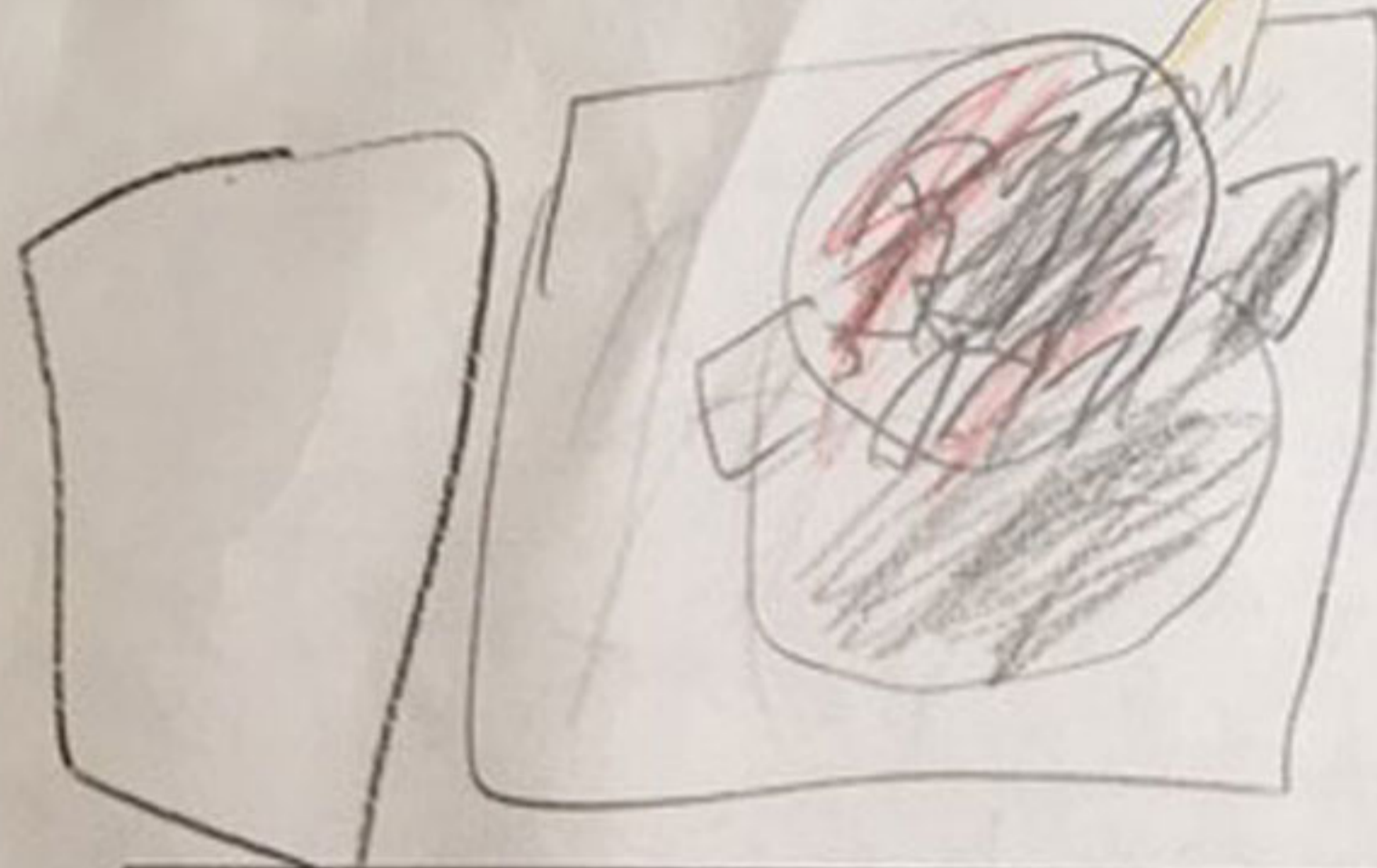
10:00-18:00(土曜・日曜)



毎日小学生新聞編集部
 〒100-8001 (東京都千代田)
 〒799-85 03-3212-2591 編集部 03-3212-0821
 E-mail: mainichou@mainichi.co.jp

定価 1冊170円(税別) 年間16,800円(税別)

ウケフライボールツチ



ボールツチはウケボール
 のでんとうリッパツリ
 ボールツチは、
 いふふよかさいをどかか
 いま十のあがりがい
 いのとりもとり王す

【石井 ちか】
 まずにくくさいなま
 す。つて、にダクネを
 いえます。ふにニンジ
 さいえます。こが
 してましいけまじ
 んのびーツはタ
 イコンでもいいで
 す。かけどはさ
 ようけてくた
 いのちからはいる
 こもいます。お
 べつも、たつ、りい
 れます。のうして、
 にくした。女ま
 す。つて、おトマ
 ストをいねら
 2女にうく

伝書鳩の思い出なるほドリへ

毎日新聞発行元は、貴重な伝書鳩のほりにある。本社が入るパレスサイドビル（東京千代田区千代田）の屋上には、6羽のハトの籠が置かれている。ビルの設計者からの依頼で作られたというが、なぜハトの籠なのか。

そのように交通や連絡が滞りしていなかった100年ほど前、「伝書鳩」は新聞社にとって貴重な連絡手段

だった。「伝書鳩」はハトの命を大切に。新聞の発行元では100羽以上のハトを飼育していた。伝書鳩から伝書鳩を育てるときは、ハトを籠に入れていったという。籠は新聞用のうすい紙に記事を書き、長さ4センチほどの筒に入れてハトの足につけて置いた。伝書鳩フィルムは長さ10センチほどの筒に入れて筒にゴムバンドで巻きつけた。ハトが

新聞社にもどるとハト籠が記事や伝書鳩を籠に入れて置いた。ハトたちは伝書鳩やフィルムを籠の中にも入れた。

ハトには伝書鳩がつけられ、伝書鳩が籠の中のハトほど伝書鳩が多かった。伝書鳩が多かったハトは、伝書鳩を籠に入れるためにくすまから飛び出す役をつとめたという。

毎日新聞では、東京オリンピックの翌年（1965年）まで伝書鳩を使った。「なるほドリ」の連載するトリは伝書鳩。ハトたちのがんばりは今も受け継がれている。



伝書鳩は、ハトの命を大切に育てる。伝書鳩は、伝書鳩の命を大切に育てる。伝書鳩は、伝書鳩の命を大切に育てる。

6/5 日曜日



毎日小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1

配達お問い合わせ
購読お申し込み

0120-468-012

（6～21時、一部地域を除く）

定価 1か月1750円（税込）

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051（住所不要）
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp



大成功ホルシチづくり!



ま、ホ、ル、シ、チ、の、ボ、ル、シ、チ、

今日はお母さんと
いっしょにボ
ルシチ作りを
楽しみました。

ボルシチは、お母さんと
いっしょにボ
ルシチ作りを
楽しみました。

「上田 唯」

ボルシチ作り大成功！
いそかわいそ、楽しかったです。

ボルシチ作り大成功！
いそかわいそ、楽しかったです。

伝書鳩の思いなるほドリへ

毎日新聞東京本社には、緑豊かな
庭園のほりにある。本社が入るパ
レスサイドビル（東京都千代田区
二ツ橋）の屋上には、6羽のハト
の像が置かれている。ビルの設計者
からの依頼で制作されたというが、
なぜハトの像なのか。

今のように交通や通信が発達して
いなかった100年ほど前、「伝書鳩」
は新聞社にとって重要な通信方法

だった。「伝書鳩」はハトの鳴き声
を活用。東京の各新聞社では100
羽以上のハトを屋上で飼っていた。
取材現場から原稿を送るときは、
ハトを数羽つれていったという。記
者は通信用のうすい紙に記事を書き、
長さ4センチほどの筒に入れてハト
の足につけて放った。写真フィルム
は長さ10センチほどの筒に入れ筒中
にゴムバンドで筒を縛った。ハトが

新聞社にもどるとハト係が記事や
写真を担当に渡した。ハトたちは原
稿やフィルムを何百枚も運んだ。

ハトには成績表がつけられ、成
績が優秀なハトほど出勤回数が多
かった。成績が悪かったハトは、運
動会を盛り上げるためにくす玉から
飛び出す役をつとめたという。

毎日新聞では、東京オリンピック
の次の年（1965年）まで大活躍し
た。「なるほドリ」の尊敬するトリ
は伝書鳩。ハトたちのがんばりは今
も受け継がれている。



筒中に写真フィルムをいれる筒を筒に縛った伝書鳩。原稿は筒の中に入れて、新聞社に戻る時タカに渡される。危険があり複数の伝書鳩が同じ原稿を運んだ。